

第三者評価委員会の仕組み と中部様式作成の手引き

【令和6年度改訂版】



国土交通省中部運輸局

- [はじめに](#) P3
- [第三者評価委員会について](#) P4
- [中部様式の位置づけ](#) P5
- [作成する中部様式資料早見表](#) P6
- **以下、中部様式作成方法**
- [表紙 の作成](#) P8
- [1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿 の作成](#) P10
- [2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組 の作成](#) P11
- [3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察 の作成](#) P13
- [4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成](#) P15
- [5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況 の作成](#) P17
- [6.計画・評価の推進体制 の作成](#) P18
- [A.地域公共交通調査事業の必要性 の作成](#) P19
- [B.地域公共交通調査事業の内容と結果 の作成](#) P20
- [C.地域公共交通調査事業の結果の活用 の作成](#) P21
- [自己評価と第三者評価の関係と中部様式の記載内容](#) P22
- [中部様式の作成と発表の留意事項](#) P23
- [中部様式作成や発表の際のポイント](#) P24

地域公共交通に関する取組は、定期的に効果を評価し、必要に応じて改善を行うことが求められます。そのためには各協議会において自己評価を行うことが必要です。こうした各協議会の自己評価について、有識者を交えて客観的な立場から取組の改善に向けたアドバイスをするため、中部運輸局では第三者評価委員会を平成23年度以降、毎年開催しています。

自己評価と第三者評価の両方を継続的に行うことによって、各協議会における取組が段階的に改善していくことを目指しています。

本手引きは、第三者評価委員会の仕組みと第三者評価委員会に参加することとなった場合の発表資料（中部様式）の作成に当たっての留意事項等を示したものです。中部様式の作成にあたっては、これまで行ってきた**取組や事業が、地域にもたらした影響について振り返り**、得られた効果について整理することで、効果的な取組が行えたかどうかを確認するとともに、**今後の改善につなげることを意識**してください。



地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱等に定められる事業評価に加え、中部運輸局独自に地域全体の公共交通に関する取組に対して評価、助言等を実施するとともに、令和3年度より、地域公共交通計画の評価結果も評価の対象として開催。（※令和2年度からオンライン形式により実施。）

① ネットワークの評価

「国庫補助」のみならず、地域公共交通計画の評価結果を評価の対象とし、地域全体の交通ネットワークについて評価を行い、地域全体の取組が真に地域公共交通の改善に資するか、議論している。

② 評価プロセスの公開

評価委員会の公開や、運輸局ホームページ上の資料公開により、地域公共交通の現状の可視化を目指している。

③ 多様な委員の参画

以下6名の学識委員が参画（2～3名が交代で担当）。各分野・立場から意見・助言を行う。

- ・松本 幸正氏（名城大学）・石川 良文氏（南山大学）
- ・倉内 文孝氏（岐阜大学）・加藤 博和氏（名古屋大学）
- ・杉木 直氏（豊橋技術科学大学）・三寺 潤氏（福井工業大学）

④ 広域的、モード横断的な視点での議論を実施

広域的バス路線と鉄道・コミバスとの役割分担や、危機的となっている広域的バス路線（幹線系統補助路線）への具体的な対応方針などについて議論。



第三者評価委員会の様子

第三者評価委員会の結果（過去3回分程度）、提出いただいた中部様式、参考資料は中部運輸局ホームページで公開されています。



第三者評価委員会のみでなく、協議会等の取組を広く市民に紹介する資料としても活用ください

地域公共交通計画

- ① 地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針
- ② 計画の区域
- ③ 計画の目標
- ④ ③の目標を達成するために行う事業・実施主体
- ⑤ **計画の達成状況の評価に関する事項**
- ⑥ 計画期間
- ⑦ その他計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

要約

中部様式

地域公共交通計画の概要について簡潔に記した上で、「⑤**計画の達成状況の評価に関する事項**」に関連することを記載するとともに、地域公共交通計画に基づく事業のうち、特に直近の1年間に取り組んだ内容を整理

(補助事業)

抜粋

本省様式 ※1

地域公共交通計画に基づく事業のうち、国補助を受けられる要件を満たすもののみを抜粋し、個別の状況について記載

※1 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目別添1及び1-2の様式

(計画の評価結果)

抜粋

本省様式 ※2

地域公共交通計画に定めた目標を抜粋し、個別の達成状況について記載

※2 「地域公共交通計画及び地域公共交通計画の評価等の送付並びに地域旅客運送サービス継続実施計画及び地域公共交通利便増進実施計画の認定申請に係る手続について」(R5.10.12付総合政策局地域交通課事務連絡)別添4の様式

点線内の資料等を基に第三者評価委員会で評価を実施、当該評価結果を踏まえて、後日、中部運輸局が補助事業の自己評価に対して二次評価を通知、地域公共交通計画の自己評価に対して必要に応じて助言を行います。

表紙



①
下記の②、③（次ページ）以外の協議会はこちら（1～6）を作成してください。

例 幹線
フィーダー
地域公共交通
計画評価

1. 【Plan】 協議会等を目指す地域公共交通の姿
2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組
3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察
4. 【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針

5. 直近2年間の二次評価の活用・対応状況
6. 計画・評価の推進体制

②
調査事業のみ実施している協議会はこちら（A～C）を作成してください。

- A. 地域公共交通調査事業の必要性
- B. 地域公共交通調査事業の内容と結果
- C. 地域公共交通調査事業の結果の活用

※直近2年間で二次評価を受けている場合は、上記5. の資料も作成してください。

③地域間幹線系統補助にかかる地域公共交通計画を作成している県協議会
(昨年度と同様です)

地域公共交通確保維持事業における地域間幹線系統を行う協議会については、
「任意様式」に以下の内容を記載してください。

- 計画の適切性
- 広域の交通網（県単独補助路線を含む。）に対する効果
- 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（以下「地域交通法」という。）に基づく協議会、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱に基づく協議会の活用状況（地域公共交通計画の見直し等）
- 計画に設定された目標の達成状況
- 事業者との協調

【その他追加資料】

- 輸送量が補助下限に近い系統（15～20人）、収支率が低い系統（25%以下）については、地域間幹線分析シート
- 第三者評価委員会の場において「交通圏」単位の協議会をグループ化し評価・意見交換を行うため、交通圏ごとの概要をまとめた任意様式の資料（参加対象の交通圏に限る。）



()内は、活性化再生法第7条の2第2項に基づき地域公共交通計画の評価結果を国へ送付する場合のみ記載

1

中部様式

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体)

◇◇市地域公共交通活性化協議会
(◇◇市)

平成〇〇年〇〇月〇〇日設置

令和〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和〇年〇月～令和〇年〇月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

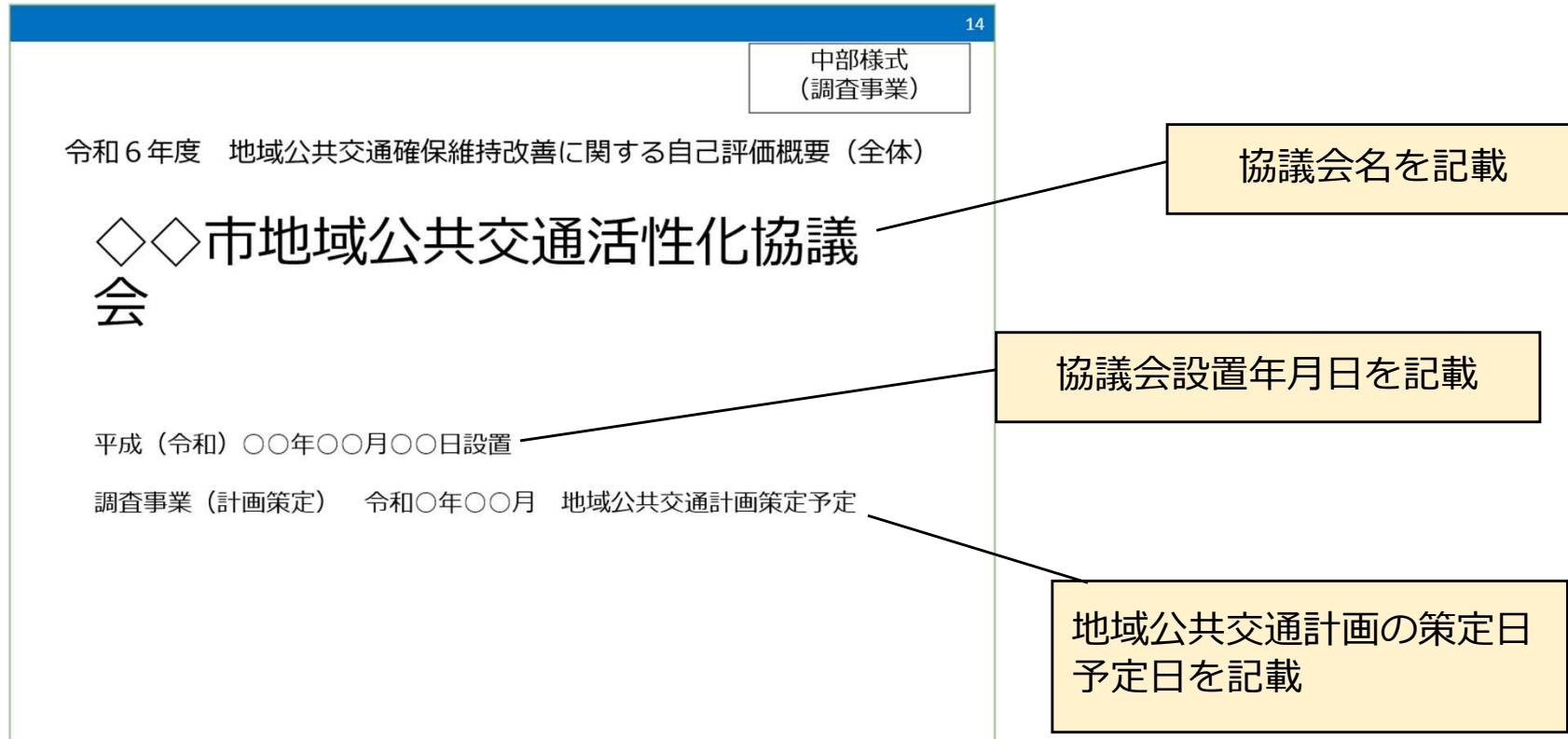
- ・地域間幹線系統確保維持国庫補助金
- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
- ・地域公共交通調査事業

協議会名を記載

協議会設置年月日を記載

地域公共交通計画の策定日、
計画期間を記載

令和6年度における補助事業
を記載



【作成のポイント】

地域公共交通計画の内容を要約して記載してください（計画が未策定の場合には現状及び今後予定している公共交通ネットワークの内容）

・現在の公共交通ネットワークをどのような公共交通ネットワークにしていきたいのか、そのための目標や目標を達成するための主な重点事業（施策）などを簡単に説明すると、全体の理解がスムーズになります
 なお、資料作成、発表の際は、次ページの「【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組」との繋がりを意識して作成、発表してください

1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

3

【〇〇市の概要】

人口：〇〇人

鉄道：〇〇線〇〇駅が所在

【計画策定の背景】

〇〇バス〇〇線の廃止を機に公共交通路線網を再編

計画の基本方針

「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」

目標1 〇〇〇〇〇〇

目標2 〇〇〇〇〇〇

目標3 〇〇〇〇〇〇

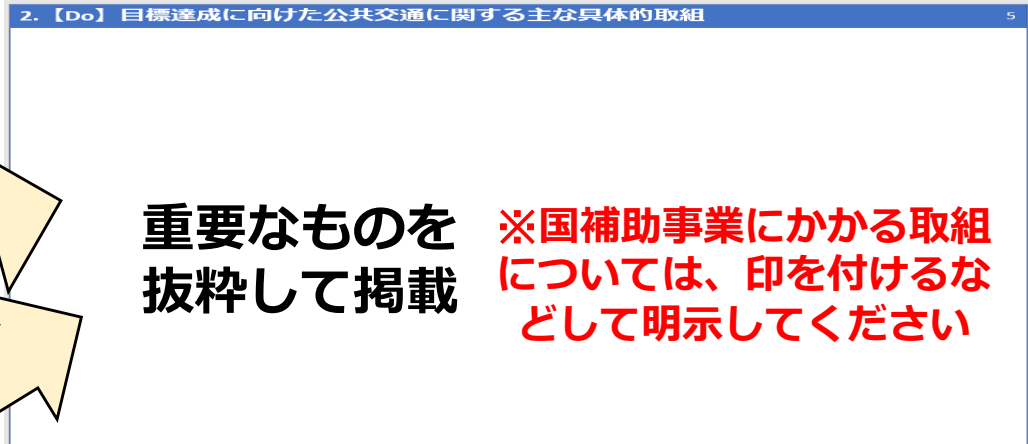
公共交通
ネットワーク
イメージ図

- ・計画で実現を目指すネットワークのイメージ図（概要図）を掲載してください
- ・補助対象路線のみ、コミュニティバスのみだけではなく、公共交通ネットワーク全体（域内の鉄道・民間路線バス等を含む）も含めて、地域公共交通を網羅的に記載してください
- ・地域間幹線系統補助を受けている路線バスやフィーダー補助を受けている路線は図面上で色を変えたり引き出し線を入れて明示するなど、一目で分かるようにしてください

【作成のポイント】

協議会において各年の取組内容について報告する資料の中から、**特に重要な取組、力を入れた取組、効果があった（見込まれる）取組、アピールしたい取組、利用促進施策等**を転載すると作成が容易です。記載するのは直近2年程度の取組としてください。

取組の実施状況について協議会で報告した資料から抜粋しましょう



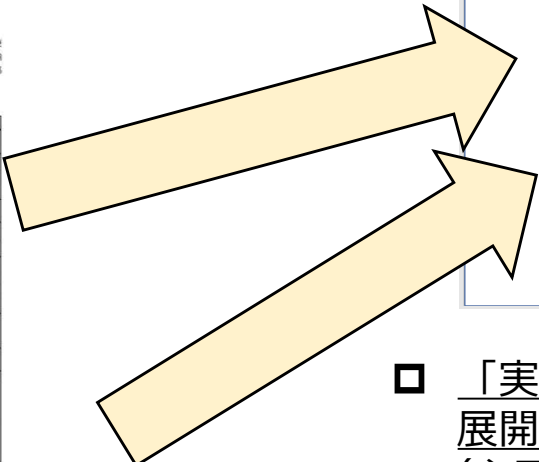
重要なものを抜粋して掲載

※国補助事業にかかる取組については、印を付けるなどして明示してください

議案第1号 令和2年度事業報告

本協議会は、地域商業に合った市民生活に必要なバス等の旅客輸送の確保と旅客の利用の促進を図るため、関市地域公共交通網形成計画の目標を達成するための事業の実施の進捗を報告いたします。

目標番号	事業内容	実施内容	実施理由
1-1	公共交通の運行	○	令和2年10月1日開業の市営バスに乗りこぎ、計画を執行し、整備を促進し、近況方針を決定しました。
1-2	バス路線の再編	○	令和2年10月1日開業の市営バスに乗りこぎ、計画を執行し、整備を促進し、近況方針を決定しました。
1-3	交通結節点の整備・改善	○	ほなぞきワイアプラザ駅前（15分）を新設しました。
1-4	バス停設備の改善	○	令和2年10月1日開業の市営バスに乗りこぎ、計画を執行し、整備を促進し、近況方針を決定しました。
1-5	バス乗車の促進	○	令和2年10月1日開業の市営バスに乗りこぎ、計画を執行し、整備を促進し、近況方針を決定しました。
2-1	市内における統一的な運営体系の構築	—	—
2-2	非営利公共交通事業者の導入	—	—
2-3	学生通学支援補助金の導入	○	令和2年度事業 11月1日開業（令和2年10月1日）



例：関市公共交通活性化協議会資料

報告事項(3) 利用促進事業等について

① くらりんばす管内営業内の延長について
平成31年3月より実施している、日進市出身の有名声優「石田ひさ子」による、くらりんばす管内営業内事業について、当初の契約期間が令和4年3月までとなっており、この度、延長期間を1年間延長したものであります。

② 「ある日エヴァンゲリオン」への記事・広告掲載について
エヴァンゲリオンシリーズの発端に「日」がパブリッシングより発行された「ある日エヴァンゲリオン」に上記の管内営業内事業に関する記事・広告を掲載しました。

1. 再興プロフィール
石田ひさ子（1947年生まれ、日進市出身）
出演作品 「新世紀エヴァンゲリオン」 深カオル 役
「劇場版『完成の男 無敵野郎』 猿渡理 役 等
他にも、「アニメの伝説」などで、数回「日進市」のPRに出演し、「レオナルド・ディカプリオ」の長年付き添いなど、多数の作品に出演されています。

2. 実施目的
くらりんばすの管内営業に国内トップクラスの声優を起用し、若いくらりんばすを利用しない層にアピール・関心を持ってもらう。くらりんばすの利用に繋げる
取組を全国に発信することにより、くらりんばすだけでなく日進市のPRを盛り出すことにより、管内の活性化を図る。

3. 経費負担及び効果
株式会社イーワンエージェンシー 660,000円（税込）
期間延長を申し込みにて実施しました。経費が仮定があり、多数のお問い合わせに、ご訪問、SNSへの投稿をいただきました（一部を紹介します）。

オリジナルステッカープレゼントキャンペーン
告知期間を拡大し、特設サイトのオリジナルステッカープレゼントキャンペーンをMEGAドン・ホーテUNY岩倉山店に協力のもと実施中（～9月）です。

オリジナルステッカー
告知期間を拡大し、特設サイトのオリジナルステッカープレゼントキャンペーンをMEGAドン・ホーテUNY岩倉山店に協力のもと実施中（～9月）です。

- 「実施した取組の概要」「実施結果」「結果の考察及び今後の展開」の関係がわかるようにすると効果的です。（必要に応じて表にまとめるなどしてください）
- 取組の実施状況がわかるような図や実施したときの写真などがあれば掲載してください。
- 取組のうち、地域公共交通確保維持改善事業の補助金を得たものについては印を付けるなどして明示してください。
- 事業のうち「フィーダー系統補助」を受給しているものは、公共交通ネットワークの中での位置づけなどについても言及してください。また、地域間幹線系統との接続状況（利用実態、ダイヤ設定の工夫、結節点整備の状況等）についても記載してください。

例：日進市地域公共交通会議

作成の例（表形式でまとめる場合は、写真等イメージ図も掲載してください）

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
★コミュニティバス 南都下線の運行 (フィーダー補助受 給系統)	コミュニティバスの 運行を継続	前年に比べて利用者が1割増 加(15000人⇒16400人)	利用者から要望が多かった鉄道との乗継改 善を図った結果、利用が増加。
デマンド交通「のら んカー」の運行	山間部においてデマ ンド交通の運行を開 始	昨年までの福祉バスに比べて 利用者が2割増加(3000人 ⇒3700人)	自宅前で乗降可能となったことが評価され た利用が増加。ただし、目的地について の要望が多いため、開業医を中心に目的 地の増加を検討。
小学校向け乗り方教 室の開催	小学生対象にバス乗 り方教室を実施	市内小学校3校で実施。参加 者120人	うち1校が社会見学でバス車庫を訪問す るなどの副次的な効果があった。
高校生サマーフリー きっぷの販売	夏休み期間中に高校 生向けのフリーき っぷを販売	8月の1ヶ月間に320枚の販 売	部活、塾通いにバスを利用しやすくな ったとの声が多い。
バスマップの作成・ 配布	市内の公共交通を網 羅したマップを作成 し、全戸配布	市内全戸20000世帯に広報と 同時配布	配布のみで効果検証はできていないた め、今後の課題として効果検証の 方法を検討していく。

取組の名称を記載
(補助対象の取組
については★印を
付けるなどしてわ
かるようにしてく
ださい)

実施他取組の概
要が分かるよう
に説明

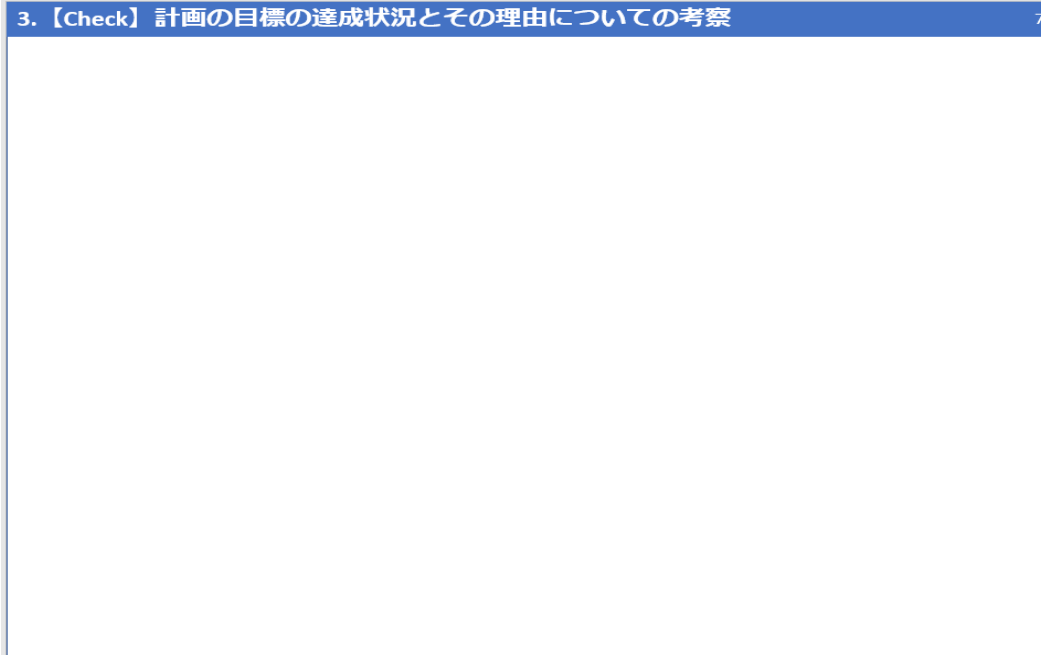
実施状況を可能な限
り数値化して記載
数値化できない場合
は具体的な実施結果
を記載

実施結果について考察し、得
られた効果について整理

実施した施策のうち、特に重要なものを赤字で強調してください

【作成のポイント】

地域公共交通計画の目標とその達成状況を測る評価指標を示した上で、各年の**達成状況**についてまとめた上で、達成・未達成となった**理由について考察**してください。



- 「目標と評価指標の関係」「達成状況」「達成状況の考察」の関係が分かるように記載してください。
- 計画書や協議会の自己評価資料から抜粋すると作成が容易です。あるいは、本資料を協議会における自己評価に活用いただくこともおすすめです。必要に応じて図表に整理するなどしてください。
- 用いる数値は、実績値や推計値、調査時点の数値など、直近のものを用いてください。
- 過去数年間の実績値の推移をまとめておくと、目標の達成状況がより良くわかります。
- 達成状況がわからない場合や考察ができない場合はその旨をそのまま記載してください（評価手法について改善のアドバイスが期待できます）。

作成の例

計画目標・評価指標・ 目標値		達成状況					考察
		1年目	2年目	3年目 (本年)	4年目	5年目	
利用しやすい公共交通の整備	利用者数 250,000人	180,000人	200,000人	220,000人			目標は未達成だが、自治会と連携した利用促進により利用増を実現した
持続可能な公共交通運営	収支率 25%	20%	22%	16%			高齢者向け割引施策の実施により、収支率が悪化
	財政負担額 3600円/人以下	3700円/人	3800円/人	3800円/人			委託費の増加によりやや目標値を達成できず
移動制約者の外出環境整備	公共交通カバー率 90%	90%	未測定	95%			新路線の整備により目標値を上回った

計画の目標
(計画から転記)

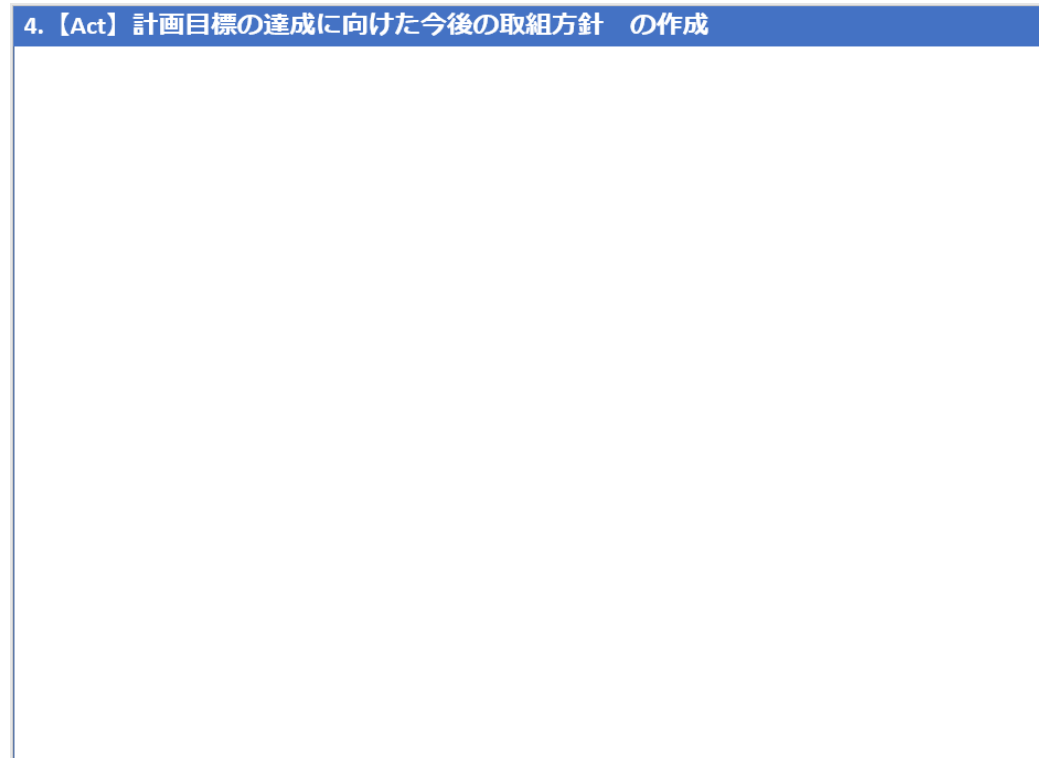
各目標に対応する評価指標と目標値
(計画から転記)

目標値の達成状況とその推移

目標値の達成・未達成の理由についての考察
「今後の方針」は次ページ (Act) で記載します

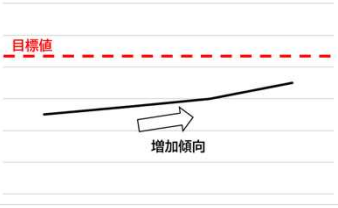
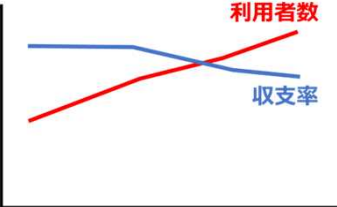
【作成のポイント】

前ページ（Check）から得られた課題、目標に対する現在の到達点を踏まえ、**今後の取組方針をスケジュールを含め**記載してください。



- 今後の方針は、1年ないし、これまでの取組の中で明らかになってきた課題を整理した上で、今後どのように対応していくかということについて、具体的に記載してください。なお、昨年度の実態を踏まえて、今年度を実施中もしくは実施予定の事業があれば、その内容やスケジュールも含めて記載してください。
- 計画の目標に対する「現在の到達点」を踏まえて、「今後の取組方針」を考えるとよいでしょう。
- 取組にあたってのアドバイスを求めたい場合には、その内容も記載してください。

【作成例】

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<p>利用者数は現状では未達成であるが増加傾向が続いている</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会と連携した利用促進活動を今後も継続実施 ・来年度からは小学校向けのバス乗り方出前教室を実施することで、小学生とその親を対象とした利用促進を実施する予定 <p>➔以上を通じて目標年度（○年度）には目標値を達成する見込み</p>
<p>収支率は目標値を大きく下回っているが、利用者は増加傾向にある</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者パスの利用が想定以上に多く、客単価が低下しているが、高齢者の外出支援という目的には大きく貢献 <p>➔次期計画にて収支率の目標値の見直しを検討中</p> <p>※目標値としてどの程度が適切かについてアドバイスをいただきたい</p>
<p>財政負担額は事業者への委託額の増加が止まらず目標達成が困難</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライバー不足からコミバスの委託費は増額が続いている ・利用の少ない路線は乗合タクシーへの切り替えを予定 <p>➔一部路線での運行形態の見直しに加えて、次期計画での目標値の見直しを予定</p>

目標の達成状況や、課題や傾向の分析内容

目標達成に向けての実施の方向性や、目標の見直しなどの方針

【作成のポイント】

過去2年間の**第三者評価結果への具体的な対応状況**を記載してください。予算措置などの関係で**対応できていない場合には、今後の予定を記載**してください。

※前回の二次評価がない場合は、記載不要

※前回の二次評価結果がわからない場合は、運輸支局までお問い合わせください

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況 11

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回			
前々回			

※前回：○年○月○日、前々回：○年○月○日

過去2回分の評価結果について記載してください

評価結果への対応状況を記載してください。
ただし、直近の評価結果については、予算措置などの関係上、対応できていないことが想定されますので、その場合は「未対応」と記載ください

- ① 評価結果を踏まえて施策を実施したものの結果を踏まえた今後の予定を記載してください
- ② 未対応のもの今後の対応の予定や方針を記載してください

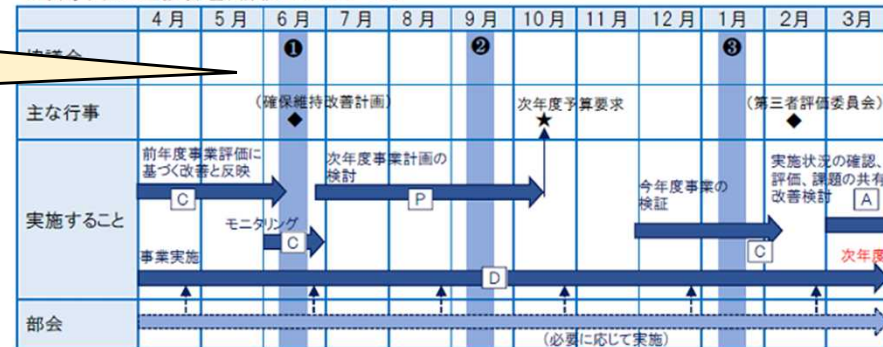
本スライドは第三者評価委員会において発表は不要です。
(委員は事前に資料に目を通しますので、作成してください)

【作成のポイント】

計画の中から**PDCAの推進体制やスケジュールに関する記載を抜粋**して記載した上で、直近の**1年間の協議会開催状況**についても説明してください。

6.計画・評価の推進体制

<年間単位の進捗管理、評価スケジュール>



計画に掲げられたスケジュールを抜粋してください。

直近1年間の協議会や部会、地域説明会などの開催状況を記載しましょう。主な議題なども記載するとよりわかりやすいでしょう。

【協議会の実施状況】

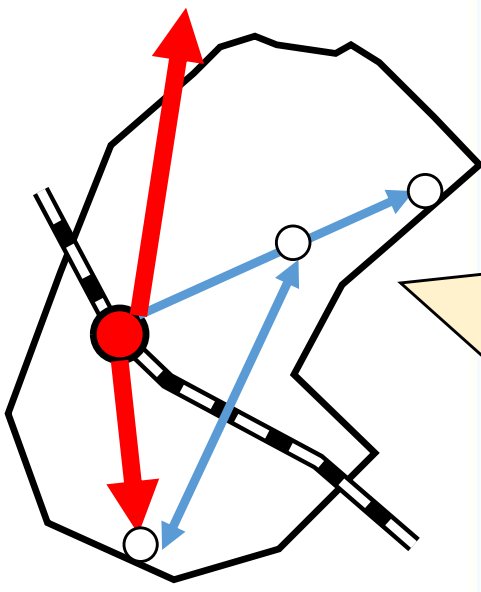
第1回協議会 ○月○日 主な議題：○○○○
 第1回部会 ○月○日 主な議題：○○○○
 第2回協議会 ○月○日<書面> 主な議題：○○○○
 ○○地域説明会 ○月○日
 第3回協議会 ○月○日 主な議題：○○○○

本スライドは第三者評価委員会において発表は不要です。
 (委員は事前に資料に目を通しますので、作成してください)

【作成のポイント】

調査の背景となる**地域の抱える交通課題**について記載しましょう。

A.地域公共交通調査事業の必要性 (調査事業実施自治体のみ作成)

調査の背景および必要性	公共交通ネットワークイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内の幹線的路線である民営バス〇〇線の廃止申し出を契機として、市内公共交通網の全面的な刷新の必要性が生じた ■ 利便性の高い公共交通網を構築するために、市民の多くが目的とする施設や、望ましい運行本数などについての詳細な分析が必要 ■ 上記分析を通じて、必要な財政負担額をシミュレーションし、実際のサービス検討に活用する 	

交付申請書（様式5-1 別紙）の「1.当該地域の公共交通の概況・問題点」「2.目指す交通計画と策定調査の必要性」から要約して作成するとよいでしょう。

公共交通ネットワークの状況がわかるイメージ図を掲載してください。現在のネットワークと、将来目指す姿を比較するなどわかりやすくしてください。

- 交付申請書の内容を要約して、地域の抱える交通課題など、計画策定の背景やその必要性がわかるようにまとめてください
- 計画がすでにある場合（計画更新の場合）には、旧計画で取り組んだ内容の総括や残された課題についても記載するようにしてください

【作成のポイント】

調査方法や、調査の結果明らかになったことを具体的に記載しましょう。

B.地域公共交通調査事業の内容と結果 (調査事業実施自治体のみ作成)

実施した調査およびその結果明らかになったこと

事業内容	結果概要
市民アンケート 全市民より3000世帯抽出 移動の目的地、時間、満足度などを質問	回収率45% 市民病院、ショッピングモールへの移動ニーズが高いが、通勤利用は少ない 通学に不便を感じている世帯が多い
高齢者グループインタビュー 高齢者団体(5地区)を対象 移動ニーズについてのインタビュー	免許返納後の移動に対する不安が大きい バスの運賃が高いという意見が多い タクシーの台数が少なく、午前中の利用が制約されるとの意見
財政負担シミュレーション 新たな公共交通網と運行本数の場合の財政負担額について、上記調査のニーズを踏まえてシミュレーション	新たに検討した公共交通ネットワークとサービスを実施した場合、財政負担が4000万円/年の増加と推計 一部サービスをバスから乗合タクシーに変更することで増加幅を3000万円/年まで圧縮可能

調査の具体的な方法や、その内容について説明してください

調査の結果明らかになったこと、調査事業が途中の場合は、途中経過や今後のスケジュール等の概要を記載してください

- 本省様式 別添1の「①事業の結果概要」に記載する内容に沿って記載するとよいでしょう。
- 調査方法については、アンケートやグループインタビュー、GISによる解析など、具体的な内容を記載してください。
- アンケートやグループインタビューの場合、対象者やサンプル数・回収率、実施時期・回数などについても記載してください。

【作成のポイント】

調査結果を地域公共交通**計画にどのように反映するか**について記載しましょう。

c.地域公共交通調査事業の結果の活用 (調査事業実施自治体のみ作成)

調査結果の地域公共交通計画への反映

- 現行の公共交通サービスは、目的地・運行時刻とも市民ニーズと乖離している部分があるため、調査結果を踏まえたサービス改善によって利便性の高い公共交通ネットワークを構築し直す
- 高齢者は、バス停までのアクセスが困難であるという意見が多いため、オンデマンド型の乗合タクシーの停留所をきめ細かく設定する
- 財政シミュレーションの結果を踏まえ、基幹路線3路線は乗合バス型、支線路線5路線は乗合タクシー（一部オンデマンド型）の新たな公共交通ネットワークを形成する

調査結果が新たな計画の取組にどのように反映されているのかがわかるように記載してください

□ 調査結果を、計画の事業検討にどのように反映したかを説明してください。



各協議会で行われる自己評価では、地域公共交通計画に基づき実施している取組の効果を総合的に把握するとともに、それぞれの路線の利用状況や各種事業の実施結果についても評価を行うことが求められます。

第三者評価委員会においても、補助金対象事業や計画策定時に作成した目標の達成度のみを議論の対象とするのではなく、自治体・協議会の取組すべてを対象としてアドバイスします。

取組すべてを対象とする理由：

- ①国が補助金によって各自治体の取組を支援することが、地域公共交通計画に基づくその他すべての事業の効果的な実施や、地域公共交通ネットワークをよりよいものとすることに役立っているかどうかという観点から評価を行うため
- ②目標の達成状況について、現在の結果に係る経緯を明らかにすることにより、今後改善すべき点についてより具体的に評価を行うため

このため、中部様式の作成にあたっては、補助金対象路線のみについて様式に記載するのではなく、自治体・協議会で取り組んでいる事業全体のあらましが分かるように記載した上で、その中で補助金対象路線がどのような役割を担っているのかを記載してください。

【中部様式の体裁について】

- ・資料は必要最低限のボリュームとして、原則として各項目につきスライド1枚に収まるように心がけてください。
- ・文章で記載することは極力避け、箇条書きや体言止めで簡潔に説明。適宜図表を活用してください

【発表について】

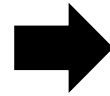
- ・各協議会等の割り当て時間：**説明は5分程度、委員質疑・評価10～15分程度です。**
- ・タイトルが青いスライドは発表に使用しますが、タイトルが緑のスライドは書面提出のみです。このため、発表時は青いページのみ発表してください。
- ・当日の発表において強調したい部分はあらかじめ文字色を変えるなどするとわかりやすくなります。
- ・資料発表後、委員との質疑・評価の時はカメラをオンにしてご対応ください。



中部様式の作成や発表の際には、以下の項目に気をつけると効果的です。

□ 取り組んだ事業内容だけでなく、その結果得られた効果を説明しましょう

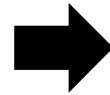
バスマップを3000部作成し、全戸配布



バスマップを3000部作成し、全戸配布した後、担当課にバスに関する問い合わせ電話が2割増加
→市民が興味を持つきっかけとなった

□ 決定事項だけでなく、プロセスを説明しましょう

〇〇地区にオンデマンド交通を導入



自治会の要望を受けて、地域との意見交換会を1年間に10回開催した結果を踏まえ、〇〇地区にオンデマンド交通を導入

□ 直近に力を入れた事業や、大きな変化や効果があった内容

〇〇バス××線の減便意向を受けて、利用促進重点路線に指定し、沿線老人クラブとタイアップした「バスで買い物ツアー」や、沿線小学校でのバス乗り方教室などを実施した結果、利用者が増加に転じた

□ (調査事業の場合) 調査を実施した結果分かったことと、計画への反映予定

ニーズ調査の結果、コミュニティバスを隣市の〇〇駅に乗り入れてほしいという意見が多数
→〇〇市と調整の上、今計画において実施に向けた取組を予定

□ 前回の第三者評価のアドバイスをを受けて取り組んだこと

●年の第三者評価委員会において、コミュニティバスと路線バスの乗継改善についてアドバイス
→4月のダイヤ改正において乗継を考慮したダイヤに変更

- 中部様式の作成および第三者評価委員会での発表は、**各地域における取組を改善するためのプロセス**のひとつです。
- このため、中部様式の作成にあたっては、過去の資料の時点修正をするのではなく、直近の取組状況を整理した上で、それに対する**考察をしっかりと行う**ことが重要です。
- **考察を行うことで、具体的な改善のポイントが明らか**となり、今後の取組を有効に実施することにつながります。また、評価委員から専門的な見地に基づいてのアドバイスを受けることが期待できます。

